

QR Newsletter

第四紀通信

Vol.4 No.4, 1997



第4回第四紀学会講習会 風景

Vol.4 No.4

July 18, 1997

1997年大会第4報	2	INQUA/GLOCOPHから	1 1
地球惑星科学合同大会	9	研究公募のお知らせ	1 2
第四紀学会講習会	1 0	研連・幹事会報告	1 3
東海地震防災セミナー	1 0	会員消息	1 4

■ 日本第四紀学会 1997年大会（総会，研究発表会） [第4報]

大会連絡先：〒060 札幌市北区北10条西5丁目 北海道大学大学院地球環境科学研究科内
日本第四紀学会1997年度大会準備委員会

TEL：011-706-2210/2220 FAX：011-747-9780

大会準備委員長：小野有五（北海道大学大学院地球環境科学研究科）

ホームページ：<http://wwwgeo.ees.hokudai.ac.jp/QR/second.htm>

1. 日 程

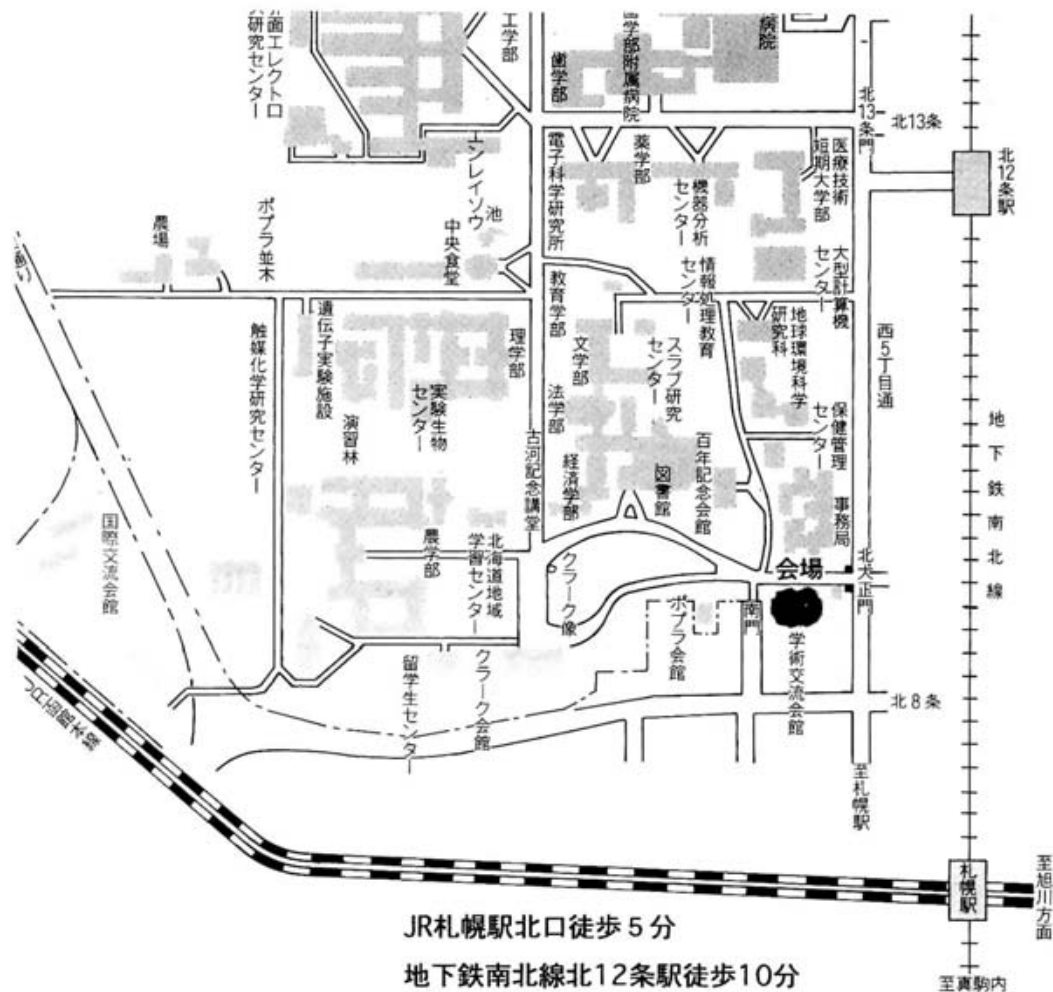
1997年8月4日（月）プレ巡検	
1997年8月5日（火）一般研究発表	-----北海道大学学術交流会館大講堂
9:00～11:47	オーラルセッション（O-1～13）
11:50～12:10	ポスターセッション ショートサマリー発表（P-1～15）
12:10～13:10	昼休み
13:00～14:48	オーラルセッション（O-14～28）
14:48～15:10	コーヒーブレイク・ポスターセッション質問
15:10～18:09	オーラルセッション（O-29～35）
ポスター展示時間	9:00～17:30
1997年8月6日（水）一般研究発表-----北海道大学学術交流会館大講堂	
9:00～10:24	オーラルセッション（O-36～42）
10:25～10:45	ポスターセッション ショートサマリー発表（P-16～31）
10:45～12:30	日本第四紀学会総会-----北海道大学学術交流会館大講堂
12:30～13:30	昼休み
13:30～14:48	オーラルセッション（O-43～49）
14:48～15:10	コーヒーブレイク・ポスターセッション質問
15:10～18:07	オーラルセッション（O-50～61）
18:30～20:30	懇親会
ポスター展示時間	9:00～17:30
1996年8月7日（木）シンポジウム-----北海道大学学術交流会館大講堂	
8:50～17:00	シンポジウム講演（S-1～17）
1997年8月8～10日（金～日）ポスト巡検（参加者少数のため中止）	

- * オーラルの講演は例年通り1会場で行われます。発表時間は1件12分で質問時間を含みます。ベルは1鈴7分、2鈴10分、終鈴12分です。2鈴で講演を終え残り時間を質疑に充ててください。
- * 一般研究発表でのスライド・OHPの使用は合計で8枚以内をお願いします。スライドは発表30分前までに会場入口のスライド受付係に提出して下さい。OHPはご自分で操作して下さい。
- * ポスターセッションは横90cm、縦180cmのパネルが用意されます。ポスターの展示は日替わりで8月5日がP-1～15、6日がP-16～31です。掲示時間は両日とも9:00～17:30です。なお、コーヒーブレイク時間には質問等が受けられるよう、発表者はできる限りポスターセッション会場に居て下さい。
- * ポスターセッション講演者にはオーラル講演の間に1件1分のショートサマリー発表の時間が与えられます。OHPやスライドを使って要領よくセールスポイントを伝えて下さい。

2. 会場

一般研究発表・総会・シンポジウム：北海道大学学術交流会館大講堂
(札幌市北区北8条西5丁目)

交通案内：JR札幌駅北口下車徒歩5～10分、地下鉄南北線北12条駅下車10分
北大正門入って左側（下の地図参照）、なお、北大構内には駐車できません。



3. 講演要旨集

講演要旨集は会場で直接販売します。定価は2500円です。通信販売もいたしますので購入ご希望の方は、学会事務センター（日本第四紀学会事務局）に申し込んで下さい。

〒113 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センターC-21 日本第四紀学会
TEL 03-5814-5801 FAX 03-5814-5820

4. 懇親会：開拓使麦酒醸造所ゆかりの赤レンガビアケラー
(会場への道順は研究発表会場でお知らせします)

5. 大会プログラム

8月7日(木) 日本第四紀学会1997年大会シンポジウム
「東アジアから西太平洋へ 一陸・海・ヒトのテレコネクションー」

オーガナイザー：小泉 格・大場忠道・小野有五（北海道大学大学院地球環境科学研究科）

番号 講演時間

8:50-9:05 シンポジウムの趣旨説明……………小野有五(北大)

第一部「氷床と海洋のテレコネクション」 座長：小野有五

- S-1 9:05-9:40 第四紀後期の東南極氷床の変動と海面変化……………
森脇喜一(極地研)・平川一臣(北大)・中田正夫(九大)／コメント:太田陽子(専修大)
- S-2 9:40-10:05 最終氷期における気候変動：Dansgaard-OeschgerサイクルとYounger Dryas……………
……………藤井理行(極地研)
- S-3 10:05-10:30 氷床モデルと気候変化……………阿部彩子(東大)

第二部「陸と海のモンスーン変動」 座長：大場忠道

- S-4 10:30-10:55 Asian monsoon instability recorded in decadal to sub-century scales of loess-paleosol
sequences on the western Loess Plateau of China……………
……………Fang Xiao-Min(蘭州大)・小野有五(北大)・Li Ji-Jun・Xi Xiao-Xia
(蘭州大)・福沢仁之(都立大)・鳥居雅之(京大)・Subir Banerjee(Univ. Minnesota)
- S-5 10:55-11:05 レス・風成塵による東アジアのモンスーン復元(コメント)……………小野有五(北大)
- S-6 11:05-11:30 最終氷期における風成塵の堆積とモンスーン変動……………成瀬敏郎(兵庫教大)
- S-7 11:30-11:40 第四紀研究における広域風成塵研究の重要性とその分析上の問題(コメント)……………
……………吉永秀一郎(森林総研)
- S-8 11:40-11:50 TL法の風成塵堆積研究への応用(コメント)……………雁沢好博(北教大)
- S-9 11:50-12:15 湖沼・内湾・レス堆積物によるアジアモンスーン変動の高精度復元……………
……………福沢仁之・山田和芳・加藤めぐみ(都立大)
・大井圭一(北大)・藤原 治(動燃)・伊勢明広・米田茂夫(ダイヤコンサルタント)
- (12:15-13:15 昼 食)
- S-10 13:15-12:40 黄海・東シナ海の最終氷期以降の環境変化……………齊藤文紀(地調)
- S-11 13:40-14:05 東シナ海海底コアにみる陸性要因の変化……………南川雅男・米田裕義・ワヒュディ(北大)
- S-12 14:05-14:30 最終氷期～後氷期の海水準および気候変動に対する日本海の応答……………多田隆治(東大)

第三部「人の移動と陸と海」 座長：小泉 格

- S-13 14:30-14:55 陸橋と黒潮変動：沖縄トラフからの発信……………氏家 宏(拓大)
- S-14 14:55-15:20 南西陸橋と人の移動……………馬場悠男(科博)
- S-15 15:20-15:45 宗谷陸橋を横切る人と文化……………木村英明(札幌大)
- S-16 15:45-16:10 日本列島とその周辺での哺乳動物群の移動(コメント)……………河村善也(愛教大)
- S-17 16:10-16:35 日本人の起源：将来への展望(コメント)……………尾本恵市(国際日本文化研究センター)
- 16:25-16:50 まとめ

8月5日(火) 一般研究発表(オーラルセッション)

- O-1 9:00-9:12 三陸沖海底コアKH94-3、LM-8中のテフラ層の同定……………
……………青木かおり(北大)・新井房夫(群大名誉教授)・山根雅之・大場忠道(北大)
- O-2 9:12-9:24 恵山火山起源テフラの層位……………鈴木隆司・紀藤典夫(北教大)
- O-3 9:24-9:36 八丈島で約6000年前と約3500年前に噴出した2組の降下テフラの特徴と起源……………
……………島田 繁・杉原重夫(明大)・福岡孝昭(学習院大)
- O-4 9:36-9:48 加速器質量分析(AMS)法による歴史噴火の14C年代測定……………
……………奥野 充(名大)・小林哲夫(鹿児島大)・中村俊夫(名大)
- O-5 9:48-10:00 石英粒子のTLCI—CIA特性 一風成塵堆積物と火山灰の識別方法……………
……………窪北耕治・雁澤好博(北教大)
- O-6 10:00-10:12 ヒマラヤ山脈・チベット高原の隆起・上昇によってもたらされた過去240万年間の
大気大循環変動……………
……………大井圭一(北大)・福沢仁之・山田和芳・岩田修二(都立大)・鳥居雅之(京大)
- O-7 10:12-10:24 関東ロームの磁化率測定……………品川俊介(土木研)
- O-8 10:35-10:47 深海堆積物中のテフラからみた伊豆—小笠原弧北部地域の後期更新世～中期更新世
火山活動史……………藤岡導明(千葉大)
- O-9 10:47-10:59 雲仙普賢岳噴火に伴う降下火山灰層の土壌化について……………陶野郁雄(環境
研)・磯 望(西南学院大)・遠藤邦彦(日大)・藤井理恵(九大)・神村郁子(大阪土質)
- O-10 10:59-11:11 眉山崩壊(1792年)と八幡平地すべり(1997年)の類似性……………
……………小林 茂(九大)・磯 望(西南学院大)・陶野郁雄(環境研)・遠藤邦彦(日大)
- O-11 11:11-11:23 有珠山付近に分布する火山性“クレーター”……………能
條 歩(今金町教委・北大)・加藤孝幸(アースサイエンス)・大島直行(伊達市教委)
- O-12 11:23-11:35 花粉分析に基づく火山噴火の期間・推移の検討—雲仙岳平成噴火堆積物を用いた事
例……………宮野義則(ジオサイエンス)・遠藤邦彦(日大)・磯 望(西南学院大)
- O-13 11:35-11:47 ブナ花粉の長距離分散:ブナ分布北限域から東方への分散……………
……………紀藤典夫(北教大)・波松里織(函館国際観光協会)
- 11:47-12:10 ポスターセッション・1分ショートサマリー (P-1～P-15)
- (12:10-13:10 昼 食)
- O-14 13:10-13:22 北信・上越多雪地域の最終氷期から完新世にかけての植生変遷……………
……………関口千穂・叶内敦子・杉原重夫(明大)
- O-15 13:22-13:34 AMS法による14C年代測定に基づく晩氷期以降の植生変遷……………
……………星野フサ(静修高)・中村俊夫(名大)・近藤鍊三(帯広畜大)・前田寿嗣(広陵中)
- O-16 13:34-13:46 中海・宍道湖地域における花粉帯の再検討……………渡邊正巳(川崎地質)・徳岡
隆夫・会下和宏(島根大)・廉 鐘權(延世大)・中村唯史(日新技術コンサルタント)
- O-17 13:46-13:58 1984年から1987年にかけて黒潮に投下した漂流瓶の漂着結果について……………
……………春川光男(銚子商高)・榎本雅彦(市川西高)・
銚子高校自然科学クラブ・東金高校地学部・銚子高校昭和60年度地学選択クラス
- O-18 13:58-14:10 吉野川北岸の中央構造線活断層系の再検討……………後藤秀昭(広島大)
- O-19 14:10-14:22 梁山断層系南部(韓国)における第四紀断層運動の評価……………
……………岡田篤正(京大)・渡辺満久(東洋大)・鈴木康弘(愛知
県大)・成瀬敏郎(兵庫教大)・竹村恵二(京大)・慶 在福(韓国教員大)・谷口 薫(
日大)・尾崎陽子(東大)・長井朋代(専修大)・植木岳雪(都立大)・下角哲也(京大)
- O-20 14:22-14:34 測地測量による丹沢山地の地殻変動とその地学的意義……………多田 堯(地理院)
- O-21 14:44-14:56 千屋断層・花岡でのボーリング調査—断層形態とスリッププレート……………
……………今泉俊文(山梨大)・佐藤比呂志(地震研)・池田安隆(東
大)・石丸恒存・酒井隆太郎(動燃)・米田茂夫・久保田裕史(ダイヤモンドコンサルタント)
- O-22 14:56-15:08 ベネゼエラ・アンデス、ボコノ断層のトレンチ調査……………
……………南アメリカ古地震ワークショップ・奥村晃史(広島大)
- O-23 15:08-15:20 能代平野の地形発達と第四紀後期地殻変動……………吾妻 崇(専修大)
- O-24 15:20-15:32 ボーリング調査によって三浦半島の沖積低地から発見された完新世津波堆積物……………
……………藤原 治(動燃)・布施圭介(大和地質)

学会からのお知らせ

- O-25 15:32-15:44 シリア北東部Tell Umm Qseir周辺の乾燥地形と洪水堆積物……………赤羽貞幸(信州大)
O-26 15:44-15:56 南西諸島喜界島における完新世サンゴ礁段丘形成過程……………佐々木圭一・大村明雄(金沢大)
O-27 15:56-16:08 放散虫が示すYounger Dryas期の日本海古海洋環境……………板木拓也(北大)
O-28 16:08-16:20 佐渡加茂湖の化石珪藻相と古環境……………小林巖雄・Van Lap Nguyen・立石雅昭(新潟大)・鴨井幸彦(興和)
O-29 16:45-10:57 珪藻分析に基づく過去約150年間の琵琶湖環境変遷史……………森川美幸・吉川周作(大阪市大)・後藤敏一(近畿大)
O-30 16:57-17:09 三陸沖海底コアの珪藻化石群集から復元する過去90,000年の北西太平洋縁辺域……………嶋田智恵子・山根雅之・長谷川四郎(北大)
O-31 17:09-17:21 北海道南西部における最終氷期末期の材化石群集……………川村弥生・紀藤典夫(北教大)
O-32 17:21-17:33 東北タイにおける最終氷期の河成作用……………田村俊和(東北大)
O-33 17:33-17:45 北海道厚岸地方チライカリベツ川低地における過去3000年間の古環境変遷……………沢井祐紀・三塩和歌子(九大)
O-34 17:45-17:57 トルコ中部トゥズ湖周辺における最近2万年間の降水形態の変動……………鹿島 薫(九大)・成瀬敏郎・杉浦弘毅(兵庫教大)
O-35 17:57-18:09 珪藻化石分析に基づく中国・太湖の過去1万年の古環境変遷……………村田泰輔(北大)・遠藤邦彦・小森次郎・小口俊一(日大)・浜田誠一(道地下資源)・兪 立中・鄭 祥民(華東師範大)

8月6日(水) 一般研究発表(オーラルセッション)

- O-36 9:00-9:12 地中海深海堆積物で検出された過去450万年間の気候変動とサブプロベルの周期性……………山田和芳・福沢仁之・増田耕一(都立大)・第161次航海乗船研究者一同
O-37 9:12-9:24 群馬県高崎市における最終氷期末の古植生と古気候……………楡井 尊(埼玉自然博)
O-38 9:24-9:36 環オホーツク海地域における最終氷期極相期以降の植生・気候変遷……………五十嵐八枝子(アースサイエンス)
O-39 9:36-9:48 奥羽山地の湯森山東斜面に生育する最上部のアオモリトドマツ林はいつ成立したか?……………池田重人・大丸裕武・梶本卓也・関 剛・岡本 透(森林総研)
O-40 9:48-10:00 第13次野尻湖発掘における地質学的・考古学的成果……………細川 学(柏崎鏡が沖中学)・野尻湖発掘調査団
O-41 10:00-10:12 伊豆大怒田場A遺跡出土細石刃の原産地……………高橋 豊(沼津高専)・西田史朗(奈良教大)
O-42 10:12-10:24 中国雲南省元謀の原人化石産出層の古地磁気……………兵頭政幸(神戸大)・仲谷英夫・ト部厚志(香川大)・薛 順英・尹 濟雲(雲南地質研)・吉 学平(雲南文物考古研)・間 章・峯本須美代・堀田暁子(神戸大)
10:24-10:45 ポスターセッション・1分ショートサマリー(P-16~P-31)
10:45-12:30 日本第四紀学会総会
12:30-13:30 昼 食
O-43 13:30-13:42 群馬県高崎市における最終氷期末の昆虫相と古環境変遷……………林 成多(新潟大)
O-44 13:42-13:54 岐阜県宮川村宮ノ前遺跡から得られた昆虫および植物化石群集……………森 勇一(愛知明和高)・中村俊夫(名大)・吉井亮一(立山博)
O-45 13:54-14:06 安達太良山系鬼面山における“雪温異常”の主な原因……………野中俊夫(福島女高)
O-46 14:06-14:18 植物珪酸体分析による古環境の推定—ササ類の植生変遷と積雪量の変動—……………杉山真二・早田 勉(古環境研)
O-47 14:18-14:30 神戸市摩耶埠頭および東灘区における兵庫県ボーリング調査……………竹村恵二(京大)・加藤茂弘(人と自然博)・井上善夫・石沢一吉(応用地質)・大鹿明文・戸来正嗣(中央開発)・野尻誠二(オキコーポレーション)・壇原 徹(京都フィッシュントラック)・林田 明(同志社大)・佐野正人(サンコーコンサルタント)・藤田和夫(断層研究資料センター)

- O-48 14:30-14:42 和歌山平野根来地区深層ボーリング調査による平野地下の地質……………水野清秀・佃 栄吉・高橋 誠(地調)・百原 新(千葉大)
- O-49 14:42-14:54 北西太平洋(シャッキーライズ)における過去2万年間の海洋環境復元……………山根雅之・大場忠道(北大)
- O-50 15:20-15:32 琉球海溝斜面から得られたピストンコアの解析に基づく過去6万年間にわたる海洋環境変動……………岡俊太郎(北大)・氏家 宏(拓大)
- O-51 15:32-15:44 Monsoon climate and global change……………王 律江(北大)
- O-52 15:44-15:56 大阪平野地下の第四系の帯磁率層序……………東脇愛子・吉川周作(大阪市大)
- O-53 15:56-16:08 完新世の北海道における温暖種の消長……………松島義章(生命の星・地球博)
- O-54 16:08-16:20 後氷期における内湾の埋積過程の復元方法について—北上川下流沖積低地を例に—……………伊藤晶文(東北大)
- O-55 16:20-16:32 新潟県上越市高田市街地における消雪用地下水の揚水による地盤沈下……………関谷一義(新潟県保健環境科研)・陶野郁雄(環境研)
- O-56 16:42-16:54 阿蘇外輪山及びその周辺の黒ボク土の生成年代と古植生……………山田一郎(九州農試)・佐瀬 隆(岩手一戸高)・久保寺秀夫(九州農試)
- O-57 16:54-17:06 石狩一苫小牧低地帯南部におけるテフラ—土壌累積断面の植生履歴と土壌生成(第2報)……………青木久美子(東工大)・細野 衛(東京自然史研究機構)・佐瀬 隆(岩手一戸高)・渡邊真紀子(東工大)
- O-58 17:06-17:18 北海道日本海沿岸部の後期更新世風成塵堆積物の層序と堆積速度……………伊藤友彦・雁沢好博(北教大)・柳井清治(道立林試)・両角 拓(室蘭本室蘭中)・伴かおり(室蘭港北中)・當眞陽子(全日空)
- O-59 17:18-17:30 東南極、リュツォ・ホルム湾、スカルプスネス、きざはし浜の含貝化石海成層の堆積構造と ^{14}C 年代測定値に基づく完新世の相対的海面変化史……………三浦 英樹(極地研)・前杵英明(山口大)・三枝 茂(日本工営)・森脇喜一(極地研)
- O-60 17:30-17:42 喜界島完新世サンゴ礁段丘最上位の形成年代—ウランおよびトリウム同位体に関する開放系サンゴ試料から推定した $^{230}\text{Th}/^{234}\text{U}$ 年代……………鷺見和子・大村明雄・佐々木圭一・福井裕康(金沢大)
- O-61 17:42-17:54 津軽海峡中央部、北海道知内沖における現生有孔虫群集……………黒澤一男・長谷川四郎(北大)

8月5日(火) 一般研究発表(ポスターセッション)

- P-1 11:50-11:51 愛知県渥美半島出土の縄文人の抜歯について……………藤田 尚(東大)
- P-2 11:51-11:52 鍾乳石を用いた電子スピン共鳴(ESR)古環境評価……………岡 俊英(大阪大)
- P-3 11:52-11:53 千葉県八千代市新川低地における後氷期の植生変遷……………稲田 晃(八千代東高)・島村健二(忍ヶ丘高)・大浜和子
- P-4 11:53-11:54 中国黄土高原、蘭州のレス—古土壌堆積物の微粒子法によるルミネッセンス年代測定塚本すみ子・福沢仁之(都立大)・小野有五・大井圭一(北大)・方 小敏(蘭州大)
- P-5 11:54-11:55 石狩低地帯南部、早来町源武のテフラ・土壌集積断面に見出される植生変動……………佐瀬 隆(岩手一戸高)・山縣耕太郎(上越教大)・細野 衛(東京自然史研究機構)・木村 準(胆沢土地改良事業所)・溝田智俊(岩手大)
- P-6 11:55-11:56 復元した日高山脈の氷河から見た最終氷期の気温と降雪量……………劉 大力・小野有五・成瀬廉二(北大)
- P-7 11:56-11:57 海成段丘堆積物のESR, TL, OSL年代測定……………幡谷竜太・田中和広(電中研)・Spooner, N.A.・Questiaux, D.G.・Grun, R.(オーストラリア国立大)・斉藤裕二(大和地質)・橋本哲夫(新潟大)
- P-8 11:57-11:58 ネパール中部、ランタン・ヒマールにおける過去3,000年間のデブリ供給と環境……………渡辺悌二(北大)
- P-9 11:58-11:59 1993年北海道南西沖地震による津波堆積物のトレンチ調査……………下川浩一・佐竹健治(地調)・重野聖之(明治コンサルタント)
- P-10 11:59-12:00 札幌付近の古地震と活断層に関する新発見—札幌市篠路の液状化跡および当別町青山奥の活断層露頭—……………岡 孝雄(道地下資源)

学会からのお知らせ

- P-11 12:00-12:01 有孔虫化石の酸素・炭素同位体比から推定される最終氷期最寒期における日本列島周辺の海洋環境……………大場忠道・山根雅之(北大)
- P-12 12:01-12:02 地層抜き取り装置及びボーリングによる神城断層(糸静線北部活断層系)の調査……………原口 強(東大)・今泉俊文(山梨大)・柳 博美(北大)・池田安隆(東大)・中田 高・奥村晃史(広島大)・東郷正美(法政大)・佐藤比呂志(地震研)・宍倉正展(千葉大)・八木浩司(山形大)
- P-13 12:02-12:03 陸羽地震断層・太田断層の露頭調査……………今泉俊文(山梨大)・原口 強(東大)・阿部真郎(奥山ボーリング)・宮内崇裕(千葉大)・八木浩司(山形大)・稲庭智子(リコー)
- P-14 12:03-12:04 鹿児島県北西部出水断層系ストリップマップ……………川原あかね(共和計測)・井村隆介(鹿児島大)
- P-15 12:04-12:05 台湾北東部、タツキリ溪と蘭陽溪の1000~3000年前の fill top 段丘群……………柳田 誠(アイエヌエー)・池田 宏(筑波大)・伊勢屋ふじこ(上武大)・小玉芳敬(鳥取大)・米山哲郎(新潟大)

8月6日(水) 一般研究発表(ポスターセッション)

- P-16 10:25-10:26 三ヶ日町只木および浜北市根堅から産出した脊椎動物化石の年代学的研究……………松浦秀治・近藤 恵(お茶の水大)
- P-17 10:26-10:27 新版50万分の1活構造図「東京」について……………杉山雄一・佐竹健治・駒澤正夫・須貝俊彦(地調)・井村隆介(鹿児島大)・水野清秀・遠藤秀典・下川浩一(地調)・山崎晴雄(都立大)・石田瑞穂(防災科研)
- P-18 10:27-10:28 西九州の完新世海水準変動より推定される上部マントルの粘性構造と南極氷床の融解史……………奥野淳一・中田正夫(九大)
- P-19 10:28-10:29 佐渡島国中段丘堆積物のシーケンス層序……………国中層団体研究グループ
- P-20 10:29-10:30 ローム層中に含まれる微細石英の堆積速度の約30万年間の変化—新潟県信濃川中流域の例—……………吉永秀一郎(森林総研)・鈴木毅彦(都立大)・木村純一(島根大)・岩崎 誠(大和探査)
- P-21 10:30-10:31 石狩湾奥砂浜に見られる海岸線変化……………濱田誠一(道地下資源)
- P-22 10:31-10:32 多摩川下流のMarine Isotope Stage3埋没段丘について……………久保純子(中央学院大)
- P-23 10:32-10:33 宮崎海岸平野に分布する古赤色土に介在するテフラの強磁性鉱物の化学組成……………赤木 功・高木 浩・長友由隆(宮崎大)
- P-24 10:33-10:34 ドゥン礫層の¹⁴C年代と変位からみた、サブヒマラヤ内部の逆断層運動……………木村和雄(東北大)
- P-25 10:34-10:35 宮城県大崎低地に分布する埋没礫層とテフラ—最終氷期の河岸段丘との関係について—……………宮原智哉(アジア航測)・印牧もとこ・藤井 亨(京王コンサルタント)
- P-26 10:35-10:36 都城盆地の累積性黒ボク土断面における褐色ローム層の粒径組成、形態別火山ガラス組成および石英含量……………井上 弦・長友由隆・高木 浩(宮崎大)
- P-27 10:36-10:37 尼崎市築地地区における液状化による建物被害(その1)……………倉園正文・津田和茂(尼崎市)・諏訪靖二・岩崎好規・濱田晃之(大阪土質)
- P-28 10:37-10:38 尼崎市築地地区における液状化による建物被害(その2)……………諏訪靖二・岩崎好規・濱田晃之(大阪土質)・倉園正文・津田和茂(尼崎市)
- P-29 10:38-10:39 中期更新世前半に噴出した上宝テフラとそれに関する中央日本の地形編年……………鈴木毅彦(都立大)
- P-30 10:39-10:40 1997年5月11日の澄川地すべりとそれに伴う水蒸気爆発について……………千葉達郎・宮原智哉・高山陶子(アジア航測)・小森次郎・遠藤邦彦(日大)・林信太郎(秋田大)
- P-31 10:40-10:41 六甲山南麓における後期更新統の堆積環境……………衣笠善博(地調)・石川浩次・細矢卓志(中央開発)

■ 地球惑星科学関連学会1998年合同大会について

1998年合同大会は5月26日（火）～29日（金）に国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3-1）で開催されます。この合同大会においては、従来と異なり共通・固有の区別はありません。また、セッション及びシンポジウムは、各学会プログラム委員等からの申し出と一般公募の両方で募集します。

セッション・シンポジウムを提案される方は、下記の情報を合同大会組織委員会まで電子メールあるいは郵送にてお送り下さい。情報交換を効率化するため、採否決定以前の段階でも、組織委員会にて提案内容を整理の上、ホームページに貼るなどの手段で一般に公開することもありますので、予めご承知おき下さい。

1. セッション・シンポジウム名（全角換算40字以内）
2. 提案者名・連絡先（所属機関、住所、電話、fax番号、**必ず**電子メールアドレス）
3. コンピーナー候補者2・3名の連絡先（所属機関、住所、電話、fax番号、電子メールアドレス）
4. 内容の簡単な説明（1行全角40字以内で3～5行）
5. 予想される発表論文数（口頭発表、ポスター発表それぞれの概数も）
6. 会場に必要な収容人数
7. 過去の実績（もしあれば）もっとも近く行われた合同大会におけるセッション・シンポジウム名、コンピーナー名、発表論文数（口頭発表、ポスター発表の総数）、使用会場の収容人数、実際の参加者概数（i. e. 会場の混み具合）。
8. 内容に関連する学会名（複数可）

○提案の締め切り 1997年9月26日（金）

○提案の宛先

郵送の場合：〒113東京都文京区本郷7-3-1 東京大学理学部一号館地球惑星物理学教室事務室気付
1998年合同大会組織委員会（「提案在中」と朱記してください）提案の印刷とフロッピー原稿
（DOS形式I. 44MBフォーマット）の両方をお送り下さい。

電子メールの場合：上記の項目を次のアドレスまでお送り下さい。taikai@grl.s.u - tokyo.ac.jp

ホームページの場合（現在検討中）：godoinfb@gtl.isas.ac.jp 宛に"teian"の一語からなるメールを送っていただければ、ホームページのURLに関する情報を返信いたします。なお、"Send"の一語からなるメールを送っていただければ、提供されている全情報のリストが送られます。

提案についてはプログラム委員会で議論してその採否を決め、採用となったものについては内容の改良、組み替え、他のセッション・シンポジウムとのすりあわせ等を行い、コンピーナーを選びます。

■ 第四紀研究の引用文献の送付依頼について

機関誌「第四紀研究」は、1994年度（補助金66万円）まで文部省科研費学術刊行物補助金をうけていました。しかし、1995年度以降、補助金対象となっておりません。不採択の理由は明らかにされませんので、鎮西会長が文部省の担当官と会談するなどして、採択されなかったと推測される原因を探ってきました。そのことをふまえて、補助金の申請書を作成するにあたり、刊行の目的や意義を明確にすること、引用文献数を正確にとらえることなどしてきました。その努力にもかかわらず、今年度も不採択となってしまいました。

今後の復活のためには、補助金の目的が学術振興と普及および「国際交流」にあることから、海外雑誌の引用文献数を正確にとらえること（文献数の数を多くすること）が不可欠と判断し、会員の皆様に、第四紀研究に掲載された論文が、海外で引用されているのを見つけた場合（自分の論文が引用されている場合や他人の論文が引用されているのを見つけた場合）、下記までそのコピーを送付していただけますよう、お願いいたします。なお、論文全体のコピーは不要で、雑誌名がわかる表紙部分と、引用されたことがわかる文献表の部分のコピーで結構です。また、海外雑誌でご自身の第四紀研究発表の論文を引用した場合には、別刷でも（コピーでも）結構です。

来年度のための申請対象となる論文は、1994年度と1995年度に発行された海外雑誌の論文です。1996年度以降発行の雑誌のものでも、次回以降に使用しますので、コピーを随時受け付けます。なお、来年度のための申請は、今年の12月上旬となりますので、1994年度の論文については、その時点が締切となります。会員皆様のご協力をお願いいたします。

送付先：〒192-03 八王子市南大沢1-1 東京都立大学理学部地理学教室 山崎晴雄

■ 第5回第四紀学会講習会

「遺跡の環境と生業の復原Ⅱ 動物遺体群を調べる」のお知らせ

第5回日本第四紀学会講習会を、下記の日程で実施いたします。動物遺体や人の生業に興味をお持ちの学生・院生・一般社会人の方々の参加をお待ちしています。

1. テーマ：遺跡の環境と生業の復原Ⅱ 動物遺体群を調べる
2. 講師：西本豊弘・樋泉岳二・岡田康弘
3. 日程：1997年10月18日（土）13時～19日（日）15時（1泊2日）
4. 開催地：青森県三内丸山遺跡体験学習館
5. 内容：第1日 三内丸山遺跡体験学習館にて出土動物遺体見学，イノシシなど解体
（夕食は解体した肉など縄文食）
（宿泊 三内丸山遺跡から徒歩 15分の青森県青年会館）
第2日 三内丸山遺跡体験学習館にて動物遺体群実習
6. 募集人数：30人程度
7. 参加費用：約 7,000 円の予定（夕食付き宿泊料，材料費などを含む）
8. 参加申し込み方法：氏名・性別・所属・連絡先（住所・ TEL/FAX ）を明記の上、はがきか FAX にて下記まで申し込んでください。
〒285 千葉県佐倉市城内町 117
国立歴史民俗博物館 辻 誠一郎（日本第四紀学会幹事）
Tel 043-0123 FAX 043-486-4299



（第4回講習会風景）

■ 第14回 “東海地震” 防災セミナー1997のお知らせ

昭和59年以来、毎年静岡市で開いてきましたが、本年も下記のとおり開催致します。関心をお持ちの方々のご参加を期待します。

- 日時：平成9年11月11日（火）13:30-16:00
会場：静岡商工会議所会館 5階ホール(JR静岡駅北口西側)
主催：東海地震防災研究会・静岡商工会議所
連絡先：〒422 静岡市宮竹1-9-24 土研究事務所（土 隆一）
電話 054-238-3240 Fax 054-238-3241

テーマ：地震予知への新たな取り組み 座長：静岡大学名誉教授 土 隆一
1. 活断層と地震予知 京都大学教授 岡田 篤正
2. 地下水の変化と地震予知 東京大学名誉教授 脇田 宏

■ INQUA/GLOCOPH 第3回国際集会・日本開催のお知らせ (予報)

INQUA/GLOCOPH対応委員会では、1998年9月に上記の国際会議を日本に招致することになりました。正式な1stサーキュラーは97年6月に配布する予定ですが、現時点での予定は以下の通りです。

- 日 程：1998年9月4日～11日
 会 場：立正大学熊谷キャンパス
 構 成：セッション (3日間)、小巡検 (1日間、荒川流域)、巡検 (4日間、中部日本)
 主要テーマ：過去2万年間の古水文変動・古環境変動
 セッションのテーマ：1)古洪水復元、
 2)古水文変動の地域間の対比と比較、
 3)氷河・周氷河地域の古水文変動、
 4)モンスーン地域の古水文変動、
 5)変動帯の古水文変遷、
 6)乾燥・半乾燥地域の古水文変動、
 7)氷期/後氷期の気候変化に対する地形・水文プロセスの反応、
 8)古水文研究とGLOCOPHグループの将来像

連絡先：門村 浩・島津 弘
 東京都品川区大崎 4-2-16 立正大学文学部地理学教室
 FAX: 03-5487-3353 E-Mail: h-kadomura@msn.com, shimazu@ris.ac.jp

なおこの国際会議のホームページは <http://geogr00.geogr.s.u-tokyo.ac.jp/~glocoph/>
 ホームページには、文部省科学研究費により整備中の「古水文学データベース」のデータ (一部) と、日本の古水文研究に関わる文献リストをアップロードしてあります。文献リストはまだ不完全ですので、掲載すべき論文を自薦・他薦を問わず作成責任者 (小口 高、oguchi@geogr.s.u-tokyo.ac.jp) までお知らせいただくと幸いです。

◆◆◆ INQUA/GLOCOPH 第2回国際集会とエクスカージョンの参加報告 ◆◆◆

INQUA/GLOCOPHコミッションの第2回国際集会在、96年9月7日～9日にスペイン・トレドで開催された。メインテーマは「古水文と環境変化のモデリング」で、3日間にわたり次の7セッションが開催された。

1) Palaeohydrological techniques and approaches for understanding the global changes, 2) Palaeohydrological interpretations from erosional and depositional sequences, 3) Palaeohydrology and environmental changes, 4) Late Pleistocene palaeohydrology, 5) Regional palaeohydrology with emphasis in tropical zones, 6) Response of extreme events to climate changes, 7) Geomorphological changes in palaeochannels and palaeodischarge reconstructions.

日本からは、青木賢人 (東大・院)、小口 高 (東大)、宮本真二 (琵琶湖博物館) が参加し、それぞれ氷河地形、河川・斜面地形、花粉分析について発表した。外国人の発表は沖積低地における河川活動の変動に関する研究が大半を占めた。中でも、アマゾン川を対象にした大スケールの研究や、ポーランドのピストラ川における高精度の編年は興味深かった。また、ポーリングコアの各種分析からみた古環境変動に関する研究も発表された。

美しい古都トレドでの大会は、ヨーロッパの研究者を中心に発表者以外の参加者も多く、盛況裏に閉会した。しかし、日本からの参加者が3人、アジア全体でも5人という地域的な偏りは大きな問題である。これは、現在GLOCOPH本部が作成している Palaeo-flood database の地点分布にも現れており、アジアは軽視されているように感じられた。

コンファレンス終了後、4日間の巡検が行なわれた。初日はタグス川流域において洪水堆積物の露頭を観察し、過去の洪水頻度や堆積物の花粉分析に関する説明を受けた。2日目はジャラマ川の段丘堆積物を観察し、歴史時代の文献資料との関連で復原された古水文変動について説明を受けた。3日目はエプロ川流域を見学し、気候変動と対応して形成された斜面地形や、湖底堆積物の花粉分析結果について説明を受けた。最終日は現成河川の過去数十年間の河道変化について説明を受けた。巡検中は連日バスでの長距離移動が続いたが、主催者側の準備が十分なされており、半乾燥地域の古水文変動について知識を深めることができた。また、パラドールでの食べきれないほどの昼食とおいしいワインも忘れられない思い出である (宮本真二・小口 高)。

研究公募のお知らせ

■ 沖縄研究奨励賞候補者の推薦依頼について

財団法人沖縄協会より、下記の沖縄研究奨励賞の推薦依頼がきています。自薦・他薦等ありましたら、規定の用紙（庶務幹事に請求下さい）に記入のうえ、8月末までに、庶務幹事まで提出して下さい。

目的： 沖縄の地域振興及び学術振興に貢献する人材を発掘し、育成する。

対象： 沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究（自然・人文・社会科学）を行っている新進研究者（又はグループ：50歳以下）2名に贈る。

表彰： 本賞ならびに副賞として研究助成金50万円を贈る。

連絡先： 〒192-03 八王子市南大沢1-1 東京都立大学理学部地理学教室 山崎晴雄
Tel.0426-77-2592, Fax.0426-77-2589

■ ASTER 研究公募（事前調査）のお知らせ

現在、通商産業省(MITI)では、米国航空宇宙局(NASA)が1998年6月に打ち上げを予定している地球観測衛星 EOS-AM1に搭載する観測機器として、ASTER (Advanced Spaceborne Thermal Emission and Reflection Radiometer)の開発を進めております。(財)資源・環境観測解析センター(ERSDAC)では、通商産業省からの委託を受け、ASTERデータの利用に関する研究提案の公募(ASTER AO)を実施することとなりました。

ASTER AOは国内、海外を問わずASTERデータの利用を希望する全ての研究者および機関に対して行われるもので、非営利かつ平和利用を目的とする全ての研究提案が対象となります(非営利であれば、民間企業からの提案も認められます)。また、ASTER AOに選定された研究者はAO研究者として登録され、一定量のASTERデータを手に入れるほか、データ取得要求(DAR)を出すことが可能となります。

ASTERは可視から熱赤外域を観測対象とした多バンド高分解能イメージャであり、地質・地形現象の解明、植生モニタリング、珊瑚礁モニタリング等を主な観測目的としています。このASTERは1992年に打ち上げた地球資源衛星(JERS-1)搭載の光学センサ(OPS)をさらに高度化したもので、以下に示すVNIR(可視近赤外域放射計)、SWIR(短波長赤外域放射計)、TIR(熱赤外域放射計)のサブシステムより構成されます。

VNIR：3バンドを有し空間分解能が15mである。また、バンド3は直下視及び後方視機能を持ち、これによりB/H比0.6の立体視機能を有する。

SWIR：6バンドを有し、空間分解能は30mである。

TIR：衛星搭載用としてははじめての熱赤外の多バンド化が実現され5バンドを有する。また、空間分解能は90mである。

ASTER AOへの参加を希望される方は、1) 氏名、2) 所属（機関、部署名、役職）、3) 住所、4) 電話・FAX番号、5) E-Mail アドレスを明記の上、ASTER AO事務局までご連絡下さい。折り返しAO事前調査資料を発送致します。なお、お問い合わせは、可能な限り電子メール(プレーンテキスト)にてお送りいただけますようお願いいたします。

お問い合わせ先： 〒104 東京都中央区勝どき3丁目12番1号 FOREFRONT TOWER 14F
財団法人資源・環境観測解析センター ASTER AO事務局
TEL：03-3533-9380 FAX：03-3533-9383 E-Mail：aodesk@ersdac.or.jp

■ 第四紀通信事務局から

第四紀学会に関する最新情報は、第四紀学会のホームページをご覧ください。

<http://www.soc.nacsis.ac.jp/qr/>

前号は大会第3報の大事な記事がありながら、発送処理に時間がかかり会員皆様のお手元に届くのが遅くなりました。またINQUA/GLOCOPHの関連記事の掲載が遅れて本号になってしまいました。関係者には深くお詫び申し上げます。第四紀通信のvol.1, No.1から担当してきました会報幹事がめでたく任期満了となり、次号からは新幹事が担当します。今後第四紀通信に関する原稿などのお問い合わせは下記にお願いいたします。

新第四紀通信事務局： 広島大学文学部地理学教室 奥村 晃史
TEL 0824-246657 FAX 0824-240320
E-mail kojiok@ipc.hiroshima-u.ac.jp >

■第16期第10回第四紀研究連絡委員会議事録

日時：平成9年5月23日（金）

13時30分から16時30分まで

場所：日本学術会議第5部会議室（6階）

出席者：池田安隆、太田陽子、大場忠道、熊井久雄、小池裕子、酒井潤一、坂上寛一、新藤静夫、立石雅昭、野上道男、松島義章、米倉伸之（12名）

欠席者：上杉 陽（1名）

1. 前回（12月13日）議事録案はすでに通信にて承認し、「第四紀通信」に掲載済み。

2. 報告

（1）委員長からの報告

平成10年度概算要求について第四紀研究の将来計画に関するシンポジウムの開催、平成10年度国際学術団体分担金の増額要求（12500スイスフラン）を平成9年2月12日付けで日本学術会議財務委員会委員長宛てに提出したことが報告された。

（2）日本学術会議報告

新藤会員から以下の報告があった。

12月16日に開催された地質学総合研連で、研連見直しについて、社会が期待する大学の地学教育に関するシンポジウムについて（今期は開催を見送る予定）などについて検討したことが報告された。2月13～14日の連合部会および14日の第4部会で、学術会議運営細目の一部見直しが見直しがされ、計算機科学の推進について勧告すること、戦略研究を推進することなどが議論され、アジア学術会議の開催について報告があった。研連見直しについては地学系研連の在り方について第4部などでどのような意見がだされているかが紹介された。

（3）国際第四紀学連合執行委員会報告

太田陽子副会長から1997年3月南アフリカ・ダーバンで開催された執行委員会について、1999年次期大会の準備状況、研究委員会の評価、アジア諸国の加盟国を増やすこと、日本の分担金増額の要請などについて報告された。

3. 審議

（1）第四紀関係の教育体制について

立石委員から、大学における第四紀関連科目の在り方に関して、最近の教育改革の流れの中で1）地質学教室が地球物理学、宇宙物理学教室とともに地球惑星科学へ、2）自然地理・地形学あるいは生物・化学教室が地質学教室と合同して地球（生物）環境科学へと改組されるなど、いずれも現在科学の教育の充実が図られていること、大学の授業内容を見ると第四紀に関連する授業が著しく充実していることなどの特徴が指摘された。第四紀関連の範囲が広いので、全体的なまとめは困難であるが、大学における第四紀関連教育の充実について、具体的な提言をまとめる方向で次回までに整理することとした。

（2）第四紀研連第16期のまとめと引き継ぎ事項について

委員長から、今期の活動報告（案）が示され、第17期への引き継ぎ事項について検討した。国際四紀学連合との関連について、将来日本に大会を招請することを検討して欲しいという意見がだされた。

4. そのほか

（1）第四紀環境変動国際シンポジウムの準備状況について委員長から報告された。

（2）第3回地球古水文環境変動

（INQUA/GLOCOPH）国際会議（1998年9月4～11日、日本にて開催予定、実行委員会委員長 門村浩立正大学教授）を第四紀研連に共催して欲しいとの要請があり、了承された。

（3）国際地形学会議を2001年に日本に招聘するために、今年国際地形学会議で提案するので、第四紀研連の支持を得たい旨、野上委員（日本地形学連合）から要請があり、了承された。

（4）熊井委員から、第四紀層序研究委員会アジア太平洋地域分科会を1998年10月に大阪で開催するため準備中で、第四紀研連の後援を得たい旨の要請があり、了承された。

次回は1997年7月18日（金）13時30分に日本学術会議にて開催する予定。

■第12回（新旧合同第1回）幹事会 議事録

日時：1997年6月28日（土）13:30～18:00

場所：東京大学地理学教室

出席：米倉伸之（次期会長）、太田陽子（次期副会長）、坂上寛一、奥村晃史、小野 昭、杉山雄一、山崎晴雄、吉川周作、斎藤享治（以上、新旧幹事）、山本麻由子（学会センター）

1. 次期執行部について

選挙管理委員会からの役員選挙結果（会長、副会長、会計監査、幹事、評議員）の報告があり、会長推薦幹事を含め次期幹事の役割分担について話し合われたまた業務内容および引き継ぎ事項を確認した。

2. 庶務

(1)第3回地球古水文環境変動（INQUA/GLOCOPH）国際会議（1998年9月4日～11日、立正大学熊谷校舎、中部山岳地域）の共催学会になることを承認した。

(2)第2回選挙管理委員会を5月10日に開催し、評議員選挙の開票、役員選挙の送付状・投票用紙の作成を行った。第3回選挙管理委員会を6月14日に開催し、役員選挙の開票を行い会長への答申を作成した。

(3)第2回論文賞選考委員会を5月31日に開催し、受賞対象論文を絞り込んだ。第3回論文賞選考委員会を6月29日に開催し、授賞論文の決定、授賞理由・答申を作成予定である。

(4)地質科学関連学協会連合の第3回準備会が4月25

日に開催され、定款および今後の運営について話し合われた。その結果、なるべく早く連合を結成するために、5月末までに正式に各学協会に参加の呼びかけを行うことが確認された。しかし、準備会世話人から、会議後に連合結成には消極的な意見、あるいは時期尚早とする意見があり、大方の合意が得られず、呼びかけは当面延期するのやむなきに至った旨、6月20日付文書での通知があった。

(5)地球環境科学関連学会協議会については、9月から10月ごろに第1回の協議会を開催予定である。

(6)第17期第四紀研究連絡委員会委員候補者については、おおむね第16期と同様に、評議員の投票により決定することとした。

(7)今年度も不採択となった第四紀研究の科研費補助金に関して、引用文献の報告数をおおくするために、第四紀通信をつうじて、海外雑誌に引用された場合、コピーを送付してもらうよう会員に呼びかけることとした。

2. 会計

(1)6月26日現在の中間報告があった。

(2)1997年度予算案の原案の説明があった。

3. 編集

(1)第四紀研究36巻2号（原著論文5篇）を刊行した。

(2)36巻2号に入会案内と入会手続きカードをいれた。

4. 行事

(1)1997年学術大会の第3報を第四紀通信4巻3号に掲載した。

(2)オーラルの発表時間は、質問時間を除いて12分としていたが、発表件数が多かったので質問時間を合わせて12分とすることにした。

5. 会報

(1)第四紀通信4巻3号を刊行した。

(2)ホームページ検討委員会で準備を進めていた文部省学術情報センターの学協会ホームページ枠に、<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/qr/>が割り当てられ第四紀学会のホームページが開設された。

6. 渉外

「第四紀露頭集－日本のテフラー」の販売促進のため、考古学関連の学会へ広告を掲載することとし、日本考古学協会と考古学研究会の会誌を候補にあげた。日本考古学協会第63回総会（1997年5月24・25日）の研究発表要旨には、半頁の広告を掲載した。

7. その他

1997年度第1回評議員会・総会資料の原案を作成した。

